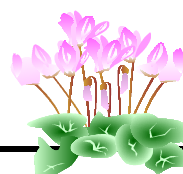


# 牧川っ子

～どの子ども大切に、どの人も大切に～



## ICT活用教育推進事業

校長 内田彦次

GIGAスクール構想は、国の計画では数年間をかけて児童生徒にタブレット端末等を整備する予定でしたが、コロナ禍によって急加速に進みました。それまでの日本の教育現場は、ICT機器の整備率がOECD22か国中で最下位。日本の中でも愛知県は整備率13.9%の47位でした。今現在、子ども1人1人には100%整備されました。

なぜ、そこまでして推し進めるかという問いの答えはいくつかありますが、一番大切な理由は子どもたちに必要ということです。「情報活用能力が日本語と同じように学習者の基盤となる力」と先進諸国は共通して考えていまして、生きていく上で、今後仕事をしていくでも必須の力と考えられています。

タブレットPC利活用の大切さがタブレットPC配付後の2年目から言われる中、本年度、本校は愛知県よりICT活用教育推進事業の研究委嘱を受けました。1学期、2学期と先生方が子どもたちといっしょに取り組んできた実践内容をご紹介します。

### ■実践の内容■

#### ●日常への急坂を登る●

先進的にICT活用教育に取り組む春日井市の小中学校や岐阜市教育委員会でICT活用教育を推進されている方々とお話すると、「日常への急坂」を登るのが先決と教えてくれました。大学の先生方からも同様のことを聞きました。

この急坂は、「ICTが教師の教える道具」から「児童が鉛筆・消しゴムのように自由自在に使う道具」になるまでに間にある坂で、全国の多くの学校がこの坂をなかなか登り切れず、次の効果的な活用ステージに移行しにくいと聞きました。そこで、タブレットPCを活用する回数を増やす取組をしました。児童への翌日の連絡、児童の健康観察連絡等のデジタル集約、teamsのオンライン会議機能を使った朝礼などを日常的に行いました。児童も学級活動のルールづくりやお楽しみ会、校外学習の見学、委員会活動の広報でタブレットPCを次第に普段使いできるようになってきました。



### ■教科学習での活用■

#### ●子どもたちが主体的に学べるように●

5年理科「土地のつくりと変化」では、平野に住む子どもたちにとって身近でない「地層」の学習でインターネットとタブレットPCを活用しました。教師から地層が見られる場所を知らされ、各自でGoogleのストリートビューを使って地層を探し、観察する学習をしました。

また、本年度モニター契約をしているAI教材Qubena(キュビナ)を活用しています。

教科書や問題集の問題を解き終えた子、テストを終えた子からQubenaに取り組む場面も増えました。Qubenaは、解けない時には以前の学習に立ち戻って問題を出してくれるため、子どもたちは自分に適した問題を解いたり、習熟度を増したりする機会に恵まれました。



これまで空間・時間・人数といった制約からできなかったこと、得られなかった学びがICTによって、いくばかりかできるようになってきました。興味・関心を引き出し、自分に適した学習を支援してくれるICTで、子どもたちが主体的に学ぶ環境が整い始めました。

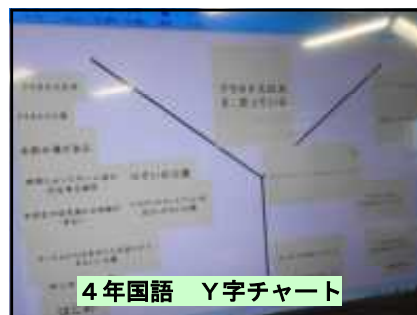
### ●考えの共有手段、深く考える手段として●

これまで教室で子どもたちが考えを共有する主な方法は、挙手と指名によるものでした。ICTによって、挙手や指名がなくても、意見や疑問など各児童の考えを共有できるようになりました。

6年算数「立体の体積」では、教師が各児童のタブレットPCに課題図形を配付し、児童は立体図に色線を描き入れながら体積の求め方を各自で考えました。紙のノートに書いた自分の考えをタブレットPCで撮影し、画像で共有しました。どの考え方がいいのか、グループで話し合いました。



4年国語「プラタナスの木」では、物語の冒頭と終末における主人公の思いの変化を各自で読み取り、グループ4人の考えをタブレットPCの思考ツール「Yチャート」上で集約しました。それを生かして対話し、グループとしての意見をまとめました。



他のグループの考えも共有した後、自分の考えを練り直し、授業のねらいに迫る問い「主人公の思いが特に変化したこととその理由」について考えたことをまとめました。

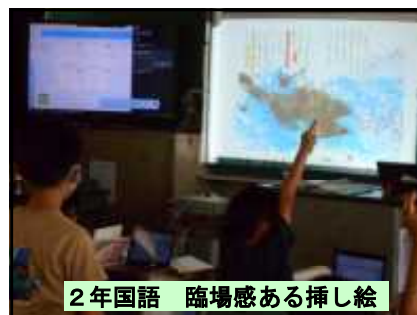
単元全体の自分の学びを俯瞰したり、友達の考えを確認したりできるように、teams上のエクセルシートで振り返る形をとって、自分の学びや友達の考えを一覧表示で見られるようにしました。

### ●低学年の取組●

1年国語「おむすびころりん」では、役割演技をして物語を読む練習をタブレットPCで撮影しました。録画を大型テレビに映し活動を振り返り、声の大きさや読み方の工夫について話し合いました。



2年国語「スイミー」では、子どもたちを物語にいざなう方法の1つとして、教科書の挿し絵をスクリーン上に投影しました。臨場感が高まり、登場人物の気持ちになって考える手助けとなりました。



3年生は、タブレットPCを一番よく活用した学年で、タブレットPCは日常的な文具の1つとなりました。授業時間を機器トラブルで失うということは、ほとんどありません。それだけ子どもたちが慣れたということです。このように習熟度を高めることで、効果的な活用への道が開けると分かりました。

### ■これからについて■

紙でやった方が効果的・効率的なことは紙で行い、タブレットPCを使った方が効果的・効率的なことはタブレットPCを使うという極めて当然のことに気づきました。

今後は、児童に基礎学力をしっかりとつけつつ、ICTをより効果的に活用できるようにしたいと考えています。そして、子どもが自分の課題を解決するにあたり、ICTをうまく活用して情報を手にしたり、いくつもの情報をまとめたり編集したりして自分の考えをもつ子、その考えについて周りの人といっしょに話したり考えたりして行動の方向性を見出せる子の育成を目指したいです。情報モラルや姿勢、視力といった健康面にも配慮しながら、健やかに前を向いて歩み続ける人の育成を目指します。

今回、研究委嘱を受けて、どんなことをやっているかをお知らせする紙面にしました。今後とも、学校教育活動にご理解・ご協力をいただきますようお願いいたします。